



考える学び、外国人の受け入れ – ラーニング・ソサイアティへ 新たな視界

米国弁護士 カリスキャピタル代表 マイケル カワチ
未来を創る財団 フェロー研究員 前理事 麻植 茂

麻植様

月曜日、Anjin(代官山)でのランチとコーヒーにお付き合いいただきありがとうございました。

日本の若者に、考えることを教えるという議論には特に感銘を受けました。

今日、エコノミスト誌でこんな記事を見つけ、麻植さんのことが浮かびました。

この記事では、イギリスはヨーロッパで最も移民をうまく受け入れていると言っています。

あとき、日本における移民受け入れについては議論しませんでした。この記事は、日本の教育についての議論には適しているように思います。

日本が、若者に「知る」(=覚える)ことでなく「考える」ことを教えるにはどうすればいいのでしょうか？

イギリスが移民受け入れに成功しているという指摘は、最後から2つ目のパラグラフです：

「イギリス人は、差別を容認しないことを強く求める。

他のヨーロッパ人と比べると、移民が言葉を学び、資格を取得し、文化を取り入れ、市民となることにイギリス人は熱心だ。

おそらくイギリスには、一度も(出稼ぎ)外国人労働者がいなかったことも手伝っているかもしれない。」

エコノミスト誌：イギリスはヨーロッパで最も移民に適した場所である

<https://www.economist.com/leaders/2024/03/21/britain-is-the-best-place-in-europe-to-be-an-immigrant>

またお会いするのを楽しみにしています。

マイケル カワチ

(マイケル カワチ氏の英語本文)

Dear Oe-san,

Thank you for joining me for lunch and coffee at Anjin on Monday. I was particularly impressed with the discussion on teaching Japanese youth to think. Today I found this article in The Economist and thought of you. The article says Britain is best in Europe at incorporating immigrants. Though



考える学び、外国人の受け入れ - ラーニング・ソサイアティへ 新たな視界

we did not discuss immigration in Japan, it seems apropos to the discussion for Japanese education -- how can Japan teach its young people to "think" instead of "know" (i.e. memorize)? The one paragraph in the article about Britain's success in immigration is in the second to last paragraph:

Britons combine an intolerance for discrimination with high expectations. Compared with other Europeans, they are keen for migrants to learn the language, obtain qualifications, adopt the culture and become citizens. It probably helps that Britain never had guest workers.

“ Britain is the best place in Europe to be an immigrant ”

<https://www.economist.com/leaders/2024/03/21/britain-is-the-best-place-in-europe-to-be-an-immigrant>

Look forward to meeting you again.

Michael Kawachi

マイケル様

先日は楽しい会話をありがとうございました。

いま日本で進行中の、総合的学習(探究)の時間* に関心をもっていただき、ありがとうございました。(* 総合的学習(探究)の時間 全国の小中高校(公立)で毎月行われているカリキュラム) その課題に、外国人・移民受け入れというテーマからのアプローチは、私の想定を超えています。示唆に富む(リベラルアーツな)ご提案ですね。

未来を創る財団の教育プロジェクトに、早速、とりいれたいと思います。

議論の中心は、エコノミスト誌の最後から2つ目のパラグラフでの指摘に対して、若者がそれぞれどのように考えるか。

正解を求めるのではなく、各人がこの課題をどのように捉え、他の人の考えを理解し、その存在を認めるか。

日本各地で行いたいと思います。ぜひ東京でもやりましょう。

ありがとうございました。

麻植 茂



マイケル カワチ

未来を創る財団 アドバイザリーボード 前評議員

米国弁護士 カリスキャピタル代表

マイケル・カワチ氏は過去 25 年間にわたり日本で米国人弁護士として活動。現在はコロンビア大学法科大学院の客員研究員、国際仲裁訓練プログラム事務局長(Executive Director of the International Mediation Training Program)また東京にある民間投資会社 Charis Capital Management Ltd.の CEO を兼務。

過去には Amazon.com の日本副社長兼総合弁護士(Associate General Counsel)を務めたほか、Skadden, Arps, Meagher, Slate and Flom 法律事務所に所属、Mayer, Brown & Platt(現 Mayer Brown Rowe and Maw)のパートナー。

未来を創る財団(東京)の評議員として財団創設に携わったほか、国際基督教大学(東京)理事、全米日系人博物館(ロサンゼルス)の理事も務める。カリフォルニア州弁護士会および第一東京弁護士会の会員。UCLA、コロンビア大学法科大学院、デューク大学フュークアビジネススクール卒業。国際ロータリー奨学生として東京大学法学部で大学院生研究 助手を務めた経験ももつ。家族はユリア夫人(旧姓ワガツマ)と二女(アイラさん、エリヤさん)。

麻植 茂(おえしげる)

未来を創る財団 社会・教育研究会メンバー

同 フェロー研究員 前理事・事務局長

41 年 兵庫県神戸市生まれ

63 年 一橋大学商学部卒業

63 年 より 69 年まで 会計事務所勤務

69 年 公認会計士事務所開業

85 年 元(げん)監査法人(現太陽有限責任監査法人)設立、元グループ代表

01 年 公認会計士廃業、一線を引く

太陽グラントソシヤル創業メンバー

13 年 8 月より 23 年まで 未来を創る財団理事・事務局長

23 年 8 月より 未来を創る財団フェロー研究員



当財団では、第一線で活動される気鋭の執筆者に依頼し、時代を拓く提案、提言を発信しています。

ご意見をおよせください。:abrighterfuture@theoutlook-foundation.org

一般財団法人 未来を創る財団 <http://www.theoutlook-foundation.org/>